

# 近代横浜港の基礎を築いた 横浜港ハンマーヘッドクレーン

1914~



建設以来104年経過後も健全な姿  
横浜税関新港設備概要(1915)

※「ハンマーヘッド」の名前の由来

塔状の構造物の上に水平のジブ(Jib:アーム部)を配置した形状で、全体の形状がハンマー(Hammer:槌)に似ていることからハンマーヘッドと呼ばれている。

2016年11月撮影

## 【展示内容】

- ・横浜港の整備とハンマーヘッドクレーン
- ・全国のハンマーヘッドクレーン
- ・横浜港の今後のプロジェクトの紹介
- ・客船ターミナルを中核とした新港地区の「YOKOHAMA HAMMERHEAD PROJECT」について



完成予想パース:新港ふ頭客船ターミナル株式会社

2018年

2019年

12月20日(木)ー1月6日(日)

※12月25日(火)、29日(土)、30日(日)、31日(月)は休館

会場＝横浜みなと博物館特別展示室

開館時間＝10:00～17:00

特別展示室入館料＝無料

※常設展は別途入館料が必要です。

主催＝国土交通省関東地方整備局

共催＝横浜市港湾局

後援＝(一財)みなと総合研究財団

協力＝長崎市、佐世保市、呉市、横須賀市、(株)JHI

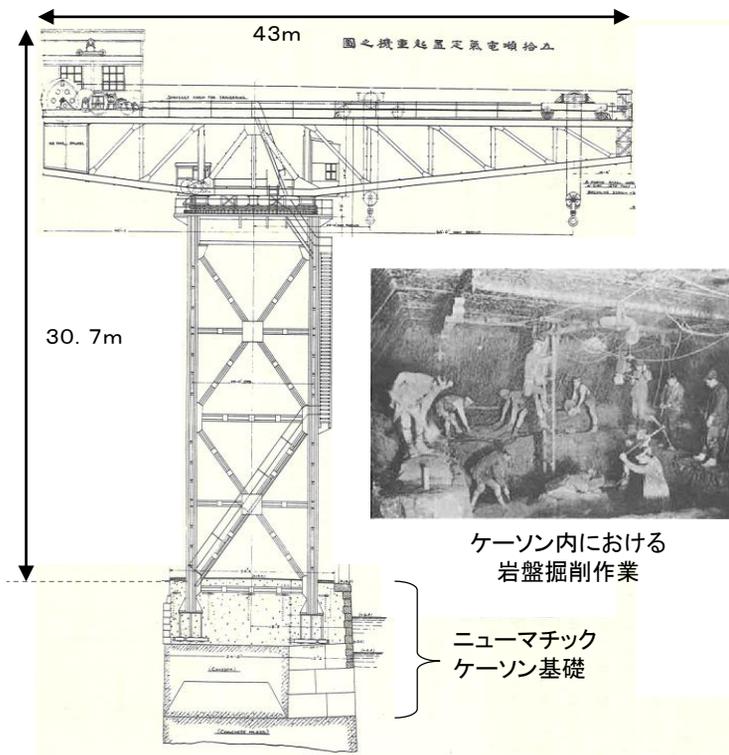
# 近代横浜港の基礎を築いた 横浜港ハンマーヘッドクレーン1914~

写真第十四



土木学会付属土木図書館蔵

横浜港 突端に無事なる50噸定置起重機  
堅固な基礎により関東大震災でも損傷を受けなかった



クレーン断面図

※「ニューマチックケーソン工法」とは  
ケーソン（鋼製又はコンクリート製の大型の函）内に圧縮空気を送りながら基礎を構築する工法で、「潜函工法」とも呼ばれる。軟弱地盤や地下水位の高い地盤を掘削する場合、そのままでは水や泥が掘削場所に流入し作業が困難になることから、予め基礎となるケーソン下部に作業空間を設け、その中に圧縮空気を送ることで気圧の高い状態で水や泥の流入を防止しつつ、掘削作業を行い基礎を構築する工法。

- ・国土交通省関東地方整備局が所有する「横浜港ハンマーヘッドクレーン」（横浜市中区）が、平成30年度の土木学会選奨土木遺産に認定（9月28日）されました。
- ・横浜港ハンマーヘッドクレーンは、1914年（大正3）に横浜港新港ふ頭に整備された英国製の国内最初の港湾荷役専用クレーンです。それまでの人力による荷役や小船はしけによる沖合の船との荷役から、直接船へ重量物の荷役が可能となるなど、我が国の港のクレーンによる荷役の先駆けとなりました。
- ・また、堅固なニューマチックケーソン基礎により、1923年（大正12）の関東大震災でも損傷を受けませんでした。この堅固な基礎構造を含め、建設以来104年経過後も健全な姿のまま、横浜港の発展に大きく寄与した歴史的な構造物です。

横浜港ハンマーヘッドクレーン施設諸元				
吊上荷重	高さ	アーム長	利用	形式
50t	30.7m	43m	港湾荷役	50t定置式電気起重機



横浜港ハンマーヘッドクレーン位置図



企画展会場

- JR根岸線、市営地下鉄ブルーライン桜木町駅下車 徒歩5分
- みなとみらい線みなとみらい駅・馬車道駅下車 徒歩5分



横浜みなと博物館